

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会

(若狭地区)意見交換概要

〔人づくり〕

- ふるさとに残るといふ思いを育てる教育を行い、ある程度、若い人達に持ってもらうことが大事である。
- 福井県は学力日本一であるが、心をもう少し育てるために家庭教育をしっかりとすべきである。
- 若い人が都会に出て行く理由は、専門教育の場が無いことも一つである。福井県の高校生が専門教育の場を都会に求めている現状がある。
- ふるさと教育やふるさとへの愛着と、街の景観をどのように保存するかということは深い関わりがある。今は高浜町も敦賀市も同じような景観であるが、昔は地域ごとの景観に特性があり、そこで子どもが育って愛着を持った。
- お金だけではなく、行政が継続して応援することが大事である。しばらくすると行政から独立しろと言われる。農業者の受入れや空き家の確保などは行政の協力が必要である。
- 子ども達も参加して耕作放棄地で稲作を行うキッズ・ファースト活動をした。農業だけではなく、環境や食を考える契機にもなる。その子ども達が中学校に進学した際、田んぼ部があれば良いと言っていた。大人たちだけではなく、子ども達を巻き込んだ地域活動をしてほしい。
- 国や社会のことを多少考えることが大事であり、そうでなければ、将来ひどい社会になってしまう。今は個人の幸福だけを追求して、社会のことを考えない人が多い。
- 8～9割は個人の幸福を考え、1～2割は社会のことを考えるような人づくりが大事であり、そのような方向性を将来ビジョンに明記してほしい。

〔コミュニティづくり〕

- 仕事一辺倒の若い世代に見守りなどの社会参加を求めていく仕組みが必要である。地域のみならず見守っていく関係、表に出て社会参加する仕組みが大事である。
- 限界集落では、3世代世帯の良さを生かすことが必要であり、そのためにも県内に働き場所を作ることが福井県を幸せにすることになる。

- 介護保険料を支払っているが、本人は家族に介護してほしいとの願望があるにもかかわらず、第三者の手を煩わさないで給付金が支払ってもらえない。家族がプツリと切れてしまう変なシステムである。家族が介護の面度をみるときも給付金を支給していくことで、3世代家族の意味も出てくると思う。
- 介護のサロンがあるが、県全体に広がるとよい。しかし、補助金が少なくボランティアによる運営になっている。
- 3世代同居は女性の精神的な負担が大きいのではないかと危惧する。このことを念頭に置いて3世代同居を進めるべき。
- 人づくりとコミュニティづくりとは関係が深い。高齢者標準のコミュニティづくりを忘れてはならない。
- 老人を元気づけるために高浜町内にサロンが10~13か所設置されている。老人クラブには約3,800人の会員がおり、70代半ばの人を中心に活動している。
- 小浜水産高校が統合されるという話を以前聞いたことがあるが、歴史が古く過去には近県から生徒が来た学校であり、独立した学校として存続させてほしい。

〔環境〕

- 福井県は環境立県と言われているが、滋賀県に比べるとゴミが多く美しくない。
- 私は梅の里花植隊という組織を立ち上げて花畑を作ったが、このような地域住民が植栽をしていく活動を奨励すると良いと思う。
- 環境立県の先進地となるために、地元のために頑張れる人を発掘してほしい。
- おおい町の合併後、総合計画を策定したが、町民がまちづくりに参画するために、交流グループ、環境グループ、働く場作りグループの3つが設けられた。給食センターの廃油を利用して、バイオ燃料を作る研究が行われており、2年間をかけてようやく中間報告ができる段階になった。NPO法人の立ち上げも進んでいる。
- 以前、レストランで食べ残しの持ち帰り運動があったが、もっと身近で実践すべきことである。
- 流通段階でも多くの食材が廃棄されていると聞くと、食べ物を多く廃棄する社会は豊かな社会とは言えない。
- 情操教育があつての環境であると思う。物を大事にする、無駄使いはしないということをもう一度教育でしっかりと行うことは、コミュニティづくりや人格形成にも良いこと。
- CO2削減に原子力発電は大きく貢献しており、嶺南地域や福井県は貢献度が大きい。また、嶺南地域は環境意識が高い地域でもあるので、原子力発電だけではなく、環境産業のメッカとなるよう将来ビジョンに明記してほしい。

〔まちづくり〕

- まちの人の心が一つになれば高浜町の活性化につながると考え、一戸一灯運動を実施している。活性化されたまちに育った子どもは、将来、客をまちに連れてきたり、まちに戻ってくると思う。大事なことは人づくりである。
- 旅館経営をしている傍ら、新幹線や高速道路が出来た時に誘客につなげてほしいが、通過されてしまうことにならないかとの心配もある。
- そのような思いを汲み上げてもらえるような仕組みを作ってほしい。
- 祭がある所には人が育つということ。子どもを叱る場面は、今や祭しかない（例えば放生祭）。今は誰も近所の子どもを叱らない。子ども達を叱るきっかけとなるのが祭や集会である。練習などで時間を長くとるべきである。
- 3世代同居や近居を生かしたコミュニティづくりは大事であり、全国に誇れるものとして将来ビジョンに明記してほしい。

〔産業〕

- 過去に杉やヒノキを植えてもらったが、ここ10年間は材価が下落しているため林業をやる気が出ない。10年後の材価を保証できるようなビジョンを示してほしい。
- 国政が変わっても県が頑張る姿勢を示し、米と園芸を両輪として進めてほしい。
- 若狭地域の第2次産業のウエイトが低いことが気になる。Uターンには仕事の選択肢が無いとダメであり、受け皿作りが必要である。選択肢のある社会が豊かな社会である。
- 嶺南地域と嶺北地域ではインフラの整備状況にギャップがある。
- また、原子力発電のマイナスイメージについてもギャップがある。決してマイナスイメージではなく、プライド、誇りを伝えていきたい。エネルギーの供給地域の住民として気概を持っている。
- 県民アンケートについては、出来る限り若い人の結果を集約してほしい。このような会議に参加される方の年齢層は高い。若い人が何を希望し、何を求めているのかを将来ビジョンに反映してほしい。